

# 地上イージス配備候補地

# 秋田・山口に政務官説明

政府がミサイル防衛強化策として2023年度の導入を目指す地上配備型迎撃システム「イージス・アショア」について、防衛省の福田達夫、大野敬太郎両政務官は1日、秋田、山口両県をそれぞれ訪れ、知事2人に配備候補地となっていないことを伝えた。いずれも夏以降に地質などの現地調査をしたいとした。

福田氏は1日午前、秋田県で佐竹敬久知事と穂積志秋田市長と面会し「秋田市の陸上自衛隊新屋演習場を最適候補地として夏以降に配備に向けた調査を始めた」と説明。防衛上の必要性を説き「朝鮮半島情勢について確定的なことは言えない」と理解を求めた。佐竹知事は演習場が住宅に近いとして「配備ありき

ではなく、周辺への影響など、今後の調査を踏まえ、住民に丁寧な説明をしてほしい」と訴えた。午後には大野氏が山口県庁で村岡嗣政知事らと面会し、陸自むつみ演習場（同県秋市、阿武町）が最適の候補地と伝達。米朝首脳会談の情勢にかかわらず、北朝鮮の脅威は深刻だという認識を示した上で「地形や広い面積から、むつみ演習場にぜひさせていただきたい」と強調した。



「イージス・アショア」の配備について説明する防衛省の大野敬太郎政務官(左端)＝1日午後、山口県庁

村岡知事は、山口県が候補地として選定された理由を繰り返し尋ね、近隣住民の不安を拭い去るための丁寧な説明をするよう要求。大野氏は「住民の理解無くしては成り立たない」と述べ、今後、住民説明会を開催する意向を示した。また、施設が攻撃目標になるとの懸念について、防衛目的の装備であり、弾道ミサイル攻撃を断念させる抑止力向上につながるとした。